



# 登米地域の稲作通信 第8号

令和5年9月1日発行  
宮城県米づくり推進登米地方本部  
宮城県登米農業改良普及センター  
Tel: 0220-22-6127

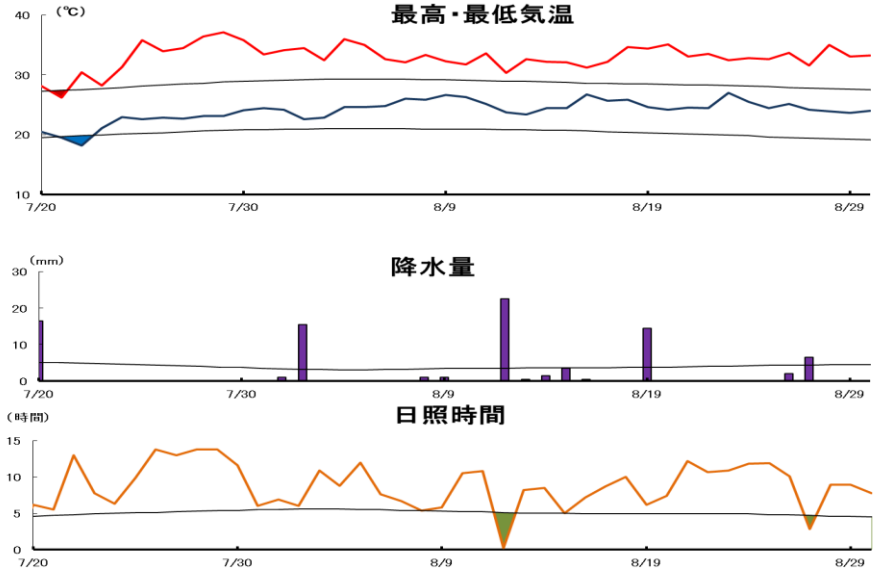


<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

## 1 気象経過

観測地点：米山アメダス

8月の気温は、平年よりも4℃以上高く推移し、暑い日が続きました。8月中旬に雨が降ったものの、8月の降水量は平年の60%となりました。日照時間は平年の159%と、高温多照の1か月となりました。



## 2 生育状況

【水稲生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	栽植密度(株/m <sup>2</sup> )	田植月日(平年差)	出穂期	出穂後25日調査結果						刈取適期予測	
							葉色(GM)	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/m <sup>2</sup> )	葉色(GM)	1穂粒数(粒)		m <sup>2</sup> 粒数(千粒)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	南方町	15.2	5月18日 前年比・差 ±0日 平年比・差 +1日	7月29日 -14日 -7日	30.3 -2.7 -2.2	85.2 91% 101%	18.9 97% 100%	395 96% 98%	27.8 -5.3 -4.1	72.4 90% 96%	28.6 86% 95%	9月4日
2	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	15.5	5月16日 前年比・差 +2日 平年比・差 -2日	8月1日 -11日 -7日	33.4 0.7 2.1	81.2 89% 97%	18.6 96% 101%	443 105% 103%	29.8 -0.4 0.4	71.5 96% 114%	31.7 102% 119%	9月8日
3	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	16.1	5月16日 前年比・差 +6日 平年比・差 +3日	7月31日 -14日 -7日	31.2 -3.7 -0.5	79.1 78% 92%	18.2 94% 98%	404 83% 93%	29.3 -5.7 -1.4	71.2 81% 100%	28.8 68% 93%	9月7日
4	ササニシキ	Cタイプ(復活ササニシキ)	豊里町	15.8	5月12日 前年比・差 ±0日 平年比・差 +1日	7月31日 -5日 -2日	31.1 -1.4 -1.1	76.2 86% 95%	18.0 94% 99%	340 106% 82%	25.4 -3.1 -4.4	76.6 83% 94%	26.0 88% 78%	9月7日
5	だて正夢	-	迫町	21.7	5月21日 前年比・差 +4日 平年比・差 +2日	8月6日 -4日 +1日	33.9 -0.9 -2.6	87.7 89% 95%	20.2 102% 104%	391 106% 93%	35.3 0.9 -0.7	93.8 99% 110%	36.6 106% 102%	9月16日
6	金のいぶき	-	登米町	19.5	5月9日 前年比・差 -5日 過去2か年平均比・差 -5日	8月2日 -9日 -6日	29.1 -2.7 -4.0	88.6 92% 96%	20.0 104% 104%	468 94% 92%	30.4 -1.6 -2.2	80.0 90% 97%	37.4 85% 89%	9月14日

※栽培タイプ  
Cタイプ：農業・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減：農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）  
※平年値は、過去5か年（平成30年～令和4年）の平均値。  
※金のいぶきは調査3年目のため、過去2か年の平均値を使用。  
※気温の積算値は8月30日までは実測値。8月31日以降はアメダス(米山)の平年値を用いた。  
※適期刈取予測は、出穂後積算平均気温でひとめぼれ・ササニシキ1,000℃、だて正夢1,040℃、金のいぶき1,100℃に達した日とした。

ひとめぼれのm<sup>2</sup>当たり穂数が平年を下回ったほ場では、m<sup>2</sup>当たり粒数も平年を下回りました。だて正夢のm<sup>2</sup>当たり穂数は平年を下回りましたが、1穂粒数が平年を上回ったため、m<sup>2</sup>当たり粒数は平年より多くなりました。金のいぶきのm<sup>2</sup>当たり穂数、粒数は平年を下回りました。

【水稲生育調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日	苗立ち本数 (本/m <sup>2</sup> )	出穂期	出穂後25日調査結果							刈取適期 予測	
							穂揃期 葉色 (GM)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (GM)	1穂粒数 (粒)	m <sup>2</sup> 粒数 (千粒)		
1	ひとめぼれ	ブラタ耕 グレンドリル 体系	米山町 (中津山)	4月24日	前年比・差 113%	174 97%	8月6日 -11日	33.6	86.1	20.4	432	37.1	79.1	34.2	9月15日
								-2.7 -0.8	97% 100%	106% 105%	102% 93%	3.6 3.5	107% 107%	110% 100%	
2	ササニシキ	ブラタ耕 グレンドリル 体系	米山町 (中津山)	4月20日	前年比・差 過去2か年 平均比・差	141% 192%	8月6日 -7日 -3日	29.9	79.2	18.5	298	29.9	89.2	26.5	9月15日
								-5.5 -5.7	110% 87%	96% 93%	97% 70%	-1.9 -7.9	76% 83%	74% 58%	
3	つきあかり	ブラタ耕 グレンドリル 体系	豊里町 (錦波)	4月24日	前年比・差 過去2か年 平均比・差	109% 96%	7月29日 -7日 -11日	31.6	71.5	17.8	253	32.8	84.9	21.5	9月6日
								-5.5 -4.3	87% 97%	93% 98%	76% 57%	-5.5 -2.4	86% 108%	65% 63%	

※平年値は、ひとめぼれは過去5か年(平成30年～令和4年)の平均値。

※ササニシキ、つきあかりは調査3年目のため過去2か年の平均値を使用。

※気温の積算値は8月30日までは実測値。8月31日以降はアメダス(米山)の平年値を用いた。

※適期刈取予測は、出穂後積算平均気温でひとめぼれ・ササニシキ1,000℃、つきあかり1,050℃に達した日とした。

ひとめぼれのm<sup>2</sup>当たり粒数は平年並となりました。ササニシキのm<sup>2</sup>当たり穂数、粒数は平年を大きく下回りました。つきあかりの1穂粒数は平年を上回りましたが、m<sup>2</sup>当たり穂数が平年を下回ったため、m<sup>2</sup>当たり粒数は平年より少なくなりました。

【管内の出穂状況】

地帯区分	出穂始期		出穂期		穂揃期	
	令和5年	平年	令和5年	平年	令和5年	平年
北部平坦	7月28日 (-1)	7月29日	7月30日 (-2)	8月1日	8月4日 (-4)	8月8日
三陸沿岸	7月28日 (-3)	7月31日	7月30日 (-4)	8月3日	8月4日 (-9)	8月13日
管内	7月28日 (-1)	7月29日	7月30日 (-2)	8月1日	8月4日 (-4)	8月8日

※出穂始期・出穂期・穂揃期は、それぞれほ場の50%以上出穂した面積が5%、50%、95%に達した日

※平年値は、過去5か年(平成30年～令和4年)の平均値。

管内の出穂期は平年より2日早い7月30日となりました。

3 今後の管理

(1) 適期刈取

1) 出穂後の積算平均気温による刈取時期の判定

品種別出穂後積算平均気温による刈取適期の目安

品種	出穂後積算平均気温	出穂後日数	品種	出穂後積算平均気温	出穂後日数
ひとめぼれ	940~1,100℃	40~45日	だて正夢	1,020~1,060℃	50日前後
まなむすめ	960~1,050℃		金のいぶき	1,050~1,150℃	50~55日
ササニシキ	930~1,150℃	45~50日	つや姫	1,000~1,200℃	48~60日
みやこがねもち	950~1,150℃		つきあかり	1,000~1,100℃	38~43日

刈取時期が遅くなるほど整粒歩合は低下し、その他未熟粒、基白粒が増加します。特に、出穂後積算気温が1,200~1,300℃になると、胴割粒等も発生して整粒歩合はさらに低下します。

今年は高温の影響により、登熟は平年よりも早まると見込まれます。刈り遅れによる品質低下を防ぐため、籾の熟色等をよく観察し適期刈取りに努めましょう。

## 出穂期からの積算平均気温に基づく刈取適期予測

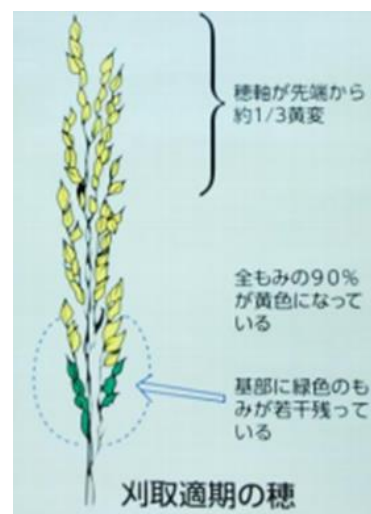
品種	刈取適期	出穂期				
		7月28日	7月30日	8月1日	8月4日	8月6日
ひとめぼれ	940～1100℃	8/31～9/6	9/3～9/9	9/5～9/12	9/9～9/16	9/12～9/19
ササニシキ	930～1150℃	8/31～9/9	9/2～9/11	9/5～9/14	9/8～9/18	9/11～9/21
だて正夢	1020～1060℃	9/3～9/5	9/6～9/8	9/8～9/10	9/12～9/14	9/15～9/17
金のいぶき	1050～1150℃	9/5～9/9	9/8～9/11	9/10～9/14	9/14～9/18	9/17～9/21
つきあかり	1000～1100℃	9/3～9/6	9/5～9/9	9/8～9/12	9/12～9/16	9/15～9/19
つや姫	1000～1200℃	9/3～9/11	9/5～9/14	9/8～9/16	9/12～9/21	9/15～9/24

※気温の積算値は8月30日までは実測値。8月31日以降はアメダス（米山）の平年値を用いた。

## 2) 籾の黄化程度

刈取始期は、籾の黄化程度で判断します。ほ場全体を平均して籾の80～90%程度が完全に成熟して黄色になり、穂軸が先端から3分の1程度黄変した時期が刈取始期となります。

稔実籾の平均水分は降雨によりバラツキを生じるものの、「ひとめぼれ」、「ササニシキ」、「まなむすめ」では、登熟期間全体を通してみれば、平均気温の積算値が約50℃増えるごとに稔実籾の平均水分が1%減少するというデータがあります。今年は、今後も高温が続くと予想されています。籾の状態をよく観察し、刈遅れにならないように注意しましょう。



## (2) 収穫作業

- コンバイン収穫で、籾水分が25.0%以下になってから刈取作業を行きましょう。
- 複数の品種の刈取りを行う場合には、品種が替わる際に十分な清掃を行い、異品種の混入を未然に防ぎましょう。
- クサネムやツユクサは、脱穀時に種子が混入すると、揺動式比重選や粒径選でも取り除くことができないので、収穫作業前に必ず抜き取りましょう。

### <籾熟色によるコンバイン収穫期の予測判定>

ひとめぼれでは、平均的穂数株(枝梗数8)の中位二次枝梗籾の籾色を観察することにより成熟段階を判定でき、刈取適期を予測できます(図2参照)。

- ◆成熟段階Ⅰ：第1位籾が急速に黄化開始。
  - ◆成熟段階Ⅱ：第1位籾がほぼ(90%)黄化。(7日以内で刈り取り早限)
  - ◆成熟段階Ⅲ：第1位籾がほとんど(95%)黄化し、第2・3位籾が黄化開始(刈り取り早限)
  - ◆成熟段階Ⅳ：第1位籾の黄化100%、第2・3位籾の30%が黄化(積算温度1000℃程度)
  - ◆成熟段階Ⅴ：第2・3位籾が50%以上黄化(刈り取り晩限)
- } 刈取適期

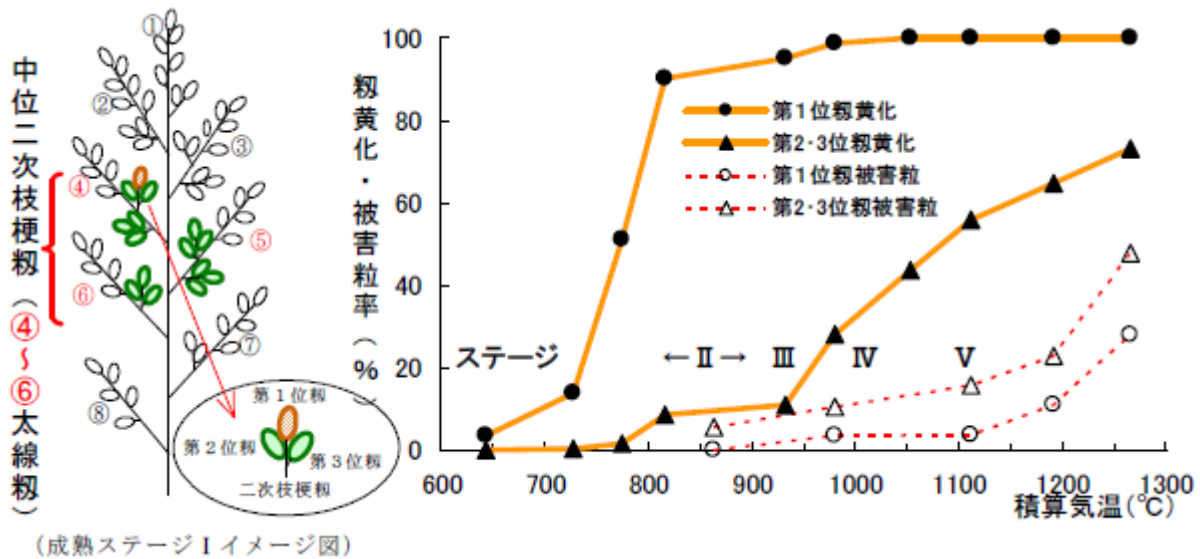


図 積算温度と穂の中位二次枝梗籾黄化率の推移

### (3) 乾燥・調製

○コンバイン収穫した生籾を放置すると発熱して変質米の原因になるので、刈取り後は、速やかに乾燥機に張り込み、送風循環しましょう。

○倒伏した稲や未熟粒の多い稲などは高水分籾の混入が多いため、過乾燥となりやすく、胴割米の発生・碎粒の増加・光沢の低下など品質低下を招きます。

高水分籾を機械乾燥する場合は、二段乾燥を行い、水分ムラや胴割米の発生などを抑えましょう。今年はお穂後に高温が連続しているため、特に胴割粒の発生が懸念されるため、二段乾燥に努めましょう。

※二段乾燥とは：籾水分が 18.0%程度になったら火力乾燥を一時中断し、一定時間通風循環後、仕上げ乾燥を行う。

○仕上がり玄米水分 14.5%~15.0%が目標です。

○籾摺は、肌ずれ防止のため、籾の温度を室温まで下げてからおこないましょう。また、ロール式籾摺機の場合は、籾(品種)に見合った適正なロール間隔に調整しましょう。

今年はお穂後に高温が連続しているため、白未熟粒の発生による落等が懸念されます。可能であれば色彩選別機を使用しましょう。

○異品種の混入を防ぐため、品種が変わる毎に機械類の清掃を行いましょう。

農 作 業 安 全 確 認 運 動 (9月1日~11月30日)

重点推進テーマ『しめよう!シートベルト』